

## 企業を元気に、佐世保を元気に

経営トップ講義  
@県立大 2018  
「ビジネス経済の実践」要旨

⑨



「やりたいことを見つけ、徹底的に突き詰めてほしい」と話す  
池田代表取締役社長  
| 県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

ホーセイ代表取締役社長

池田 真秀氏(45)

私たちは大きく分けて六つの事業を展開している。主な事業は船舶修理業で、米海軍の艦船や海上自衛隊の護衛艦、JR九州高速船「ビートル」などの一般船舶のメンテナンスを手掛けている。高い技術が必要とされ、「船の総合病院」の役割を果たしている。

私は大学卒業後、東京の航空関連会社に入り、総務や経営、営業を学んだ。その後、半年間の米国留学を経験。2001年に地元の佐世保市に戻り父が創業したホーセイに入社し、15年に社長に就任した。最初に取り組んだのは現場の環境改善だった。現場は高い技術力を持つているが、工場は足の踏み場がないほど汚

かった。社員と協力して工具を整理整頓することから始めた。意識の変化が生産力や向上心のアップにつながり、艦艇修理業界として国内で初めて国際認証規格ISO9000を取得した。

さらに、一つの仕事にかけられる時間を「見える化」する原価会計システムを導入し、仕事の効率を高めた。人材を「人財」と位置付け、社員の採用と教育にも力を入れている。私たちは「常に正しきを守れ」という心構えを大事にしている。大企業のデータ改ざんが社会問題となっており、一つでも仕事をこまかせば会社の衰退につながる。仕事でミスがあったとしても、みんなですっかりと検証して繰り返さないようにする。そうした謙虚な姿勢が会社と社員の成長につながる。

社会に貢献する「利他の精神」も大切だ。これは、08年に佐世保青年会議所(JC)に入り、多くの先輩から学んだ。JCはアメリカカンファレンステイバルを企画するなど、地域のための奉仕活動を続けている。佐世保が元気だからこそ、会社が成り立つということに気付かせてもらった。本県は人口減少が激しい。対策は町の魅力を高め、交流人口と定住人口を増やすしかない。私は佐世保地域経済活性化推進協議会の地方創生プロジェクトチームの代表幹事を務めており、若者の意見を取り入れた観光客誘致策や定住政策を実行してきた。こうした取り組みを続けなければならぬ。

# 正しきを守れ 心構えに

これはからの人材は想像力と創造力、コミュニケーション能力、豊かな感性などが求められる。自分がやりたいことを見つけ、徹底的に突き詰めてほしい。憂鬱(ゆううつ)に感じる仕事でも勇気を持ってチャレンジすれば、必ず自分の成長につながる。

(山下寛明)

|| 次回は18日に掲載します ||